2013. 5. 18

名ホールの響き
第５回

プラハ、スメタナ ホール

プログラム

世界の有名なホールで演奏された録音を聴きながら、その響きの妙を楽しんでいただくシリーズ「名ホールの響き」の第5回目は、チェコ、プラハのスメタナホールを取り上げます。

1912年に完成した市民会館の２階にあるのがスメタナホールで、座席数は1200。アールヌーヴォー様式による柔和な外観を持ち、天井を飾るフレスコ画、ステンドグラスなど様々な装飾が施された内装も見事です。このアールヌーヴォーとは「新しい芸術」という意味ですが、19世紀末から20世紀初頭にかけ、欧米各地で一斉に流行した装飾様式で、しなやかな曲線と曲面が多用されているのが特徴です。豊かな響きと美しい余韻を残すこのホールは「プラハの春国際音楽祭」のメイン会場として有名です。この音楽祭は、1946年より始まり、毎年、“チェコ国民主義音楽の父”スメタナの命日5月12日に、交響詩“わが祖国”の演奏で開幕します。長い歴史の中で数多くの名指揮者が登場していますが、今日は我が国の小林研一郎をはじめ、マッケラス、クーベリックという3人の名指揮者による「わが祖国」の競演。シェリング、スーク2巨匠が共演したバッハ。また、ロシア、イギリス、ドイツ、それぞれ異なる国のオーケストラによる名曲の競演もお楽しみください。

＊＊＊＊＊＊＊

ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685～1750）：
2つのヴァイオリンのための協奏曲ニ短調BWV.1043 ～
第1楽章、第2楽章から、第3楽章

ヘンリク・シェリング(ヴァイオリン) ／ヨゼフ・スーク(ヴァイオリン)
ヨゼフ・ヴラフ指揮チェコ室内管弦楽団
（1972.5.26 プラハ、スメタナホールでのLive）

ベトルジーハ・スメタナ（1824～1884）：
連作交響詩“わが祖国”～

交響詩“高い城（ヴィシェフラド）”
チャールズ・マッケラス指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
（1999.5.12 プラハ、スメタナホールでのLive）

交響詩“モルダウ”
ラファエル・クーベリック指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
（1990.5.12 プラハ、スメタナホールでのLive）

交響詩“ブラニーク”
小林研一郎指揮チェコ・フィルハーモニー管弦楽団
（2002.5.12 プラハ、スメタナホールでのLive）

＊＊＊ 休 憩 ＊＊＊

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト（1756～1797）：
ピアノ協奏曲第25番ハ長調K.503～第1楽章から、第3楽章から

エリーソ・ヴィルサラーゼ(ピアノ)
キリル・コンドラシン指揮モスクワ・フィルハーモニー管弦楽団
（1975.5.14 プラハ、スメタナホールでのLive）

エドワード・エルガー（1857～1934）：
エニグマ（謎）変奏曲 ～ ニムロッド／終曲

ゲンナジー・ロジェストヴェンスキー指揮ＢＢＣ交響楽団
（1979.5.23 プラハ、スメタナホールでのLive）

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン（1770～1826）：
交響曲第3番変ホ長調op.55“英雄” ～ 抜粋

クリストフ・フォン・ドホナーニ指揮北ドイツ放送交響楽団
（2009.5.27 プラハ、スメタナホールでのLive）